

中間期 株主通信

第74期 ご報告

2012年4月1日から2012年9月30日まで



 **新田せり子株式会社**

証券コード：4977

グローバル・ゼラチンスペシャリストとして、 アジア圧倒的 No.1、世界オンリーワン企業を目指します！

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃からの温かいご支援に厚くお礼申し上げます。

当社は、ゼラチンに加えグローバルで成長が大きく期待されるコラーゲンペプチド、コラーゲンケーシングの全てを、原料から一貫生産・販売・提案ができる世界でも唯一の会社です。ゼラチンにおいては国内シェアトップ、世界シェア第4位のアジア最大のグローバル・ゼラチンスペシャリスト・カンパニーです。

当社は創業以来、産業構造の変遷を先取りしてきた「進化企業」であるといえます。時代と共にアプリケーションは日々進化してきましたが、畜産業の副産物を利用し、付加価値の高い製品を作り出すことは変わっていません。その結果、コラーゲン、ゼラチンに関わる膨大なノウハウを蓄積してきました。今後は、経済成長著しいアジアを重点市場とし、ゼラチン、コラーゲンペプチド、コラーゲンケーシングの供給能力増強と販売拡大を行ってまいります。また、これまで、BSE(牛海綿状脳症)による風評被害やデジタル化による写真用ゼラチンの凋落など大きな壁に直面してきましたが、壁を乗り越えるたびに生まれ変わり、成長を続けてきました。このように市場の大きな環境変化の壁を乗り越え、常に前進し続けることが私たちの使命であると考えています。

● 2013年3月期第2四半期累計の経営成績について

当社グループは、「お客様第一主義」「グローバル&イノベーション」「選択と集中」を経営の基本方針とし、新製品開発や新市場開拓に積極的に取り組み、お客様にご満足いただける製品・サービス提供に注力しました。

海外市場では、旺盛な需要を受け販売が好調に推移しました。一方、日本市場では競合品の影響を受け販売が低迷しました。

以上の結果、売上高14,029百万円(前年同期比2.0%減)、営業利益901百万円(前年同期比28.8%減)、経常利益は、持分法による投資利益の増加により947百万円(前年同期比20.1%減)、四半期純利益は、税金負担の軽減により709百万円(前年同期比8.8%減)となりました。

● 2013年3月期の業績全般の見通しについて

長期化する円高やデフレの進行等、経済環境は依然不透明で厳しい状況が続くものと推測します。国内では少子高齢化にともない食生活や消費構造の変化が進み、海外では特にアジア地域での所得向上により、消費市場が拡大するなど市場環境は日々変化しています。多様化する環境の中で将来にわたって持続的に成長するためには、これらの



市場変化を素早く読み取り、グローバルな視点からスピード感と競争力をもって事業を推進することが不可欠であると考えています。

より一層の省エネ・省資源、効率化を進め、日本における電力の供給制限への対応をはじめ、グループ全体でCO₂削減に取り組むとともに、国際競争力のある製品コストを実現します。

素材開発力に加え、アプリケーション力を活かして高付加価値製品の日本での販売拡大を進めると共に、海外市場への展開を行います。

海外では製品供給能力をさらに増強し、北米、中国・アジアでゼラチン、コラーゲンケーシング、コラーゲンペプチドの販売拡大を進めます。

2013年3月期の連結業績見通し (百万円)

売上高	28,900(前期比4.1%増)
営業利益	2,070(前期比2.7%増)
経常利益	2,100(前期比4.9%増)
当期純利益	1,370(前期比0.4%減)

● 株主還元について

当期の配当金につきましては、中間配当1株当たり6円(決定)、期末配当1株当たり6円(予定)、合計12円(前期比2円増配)を予定させて頂いています。また、株主優待についても継続的に実施することで、皆様のご支援にお応えしてまいります所存です。

株主の皆様には、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新田ゼラチン株式会社
代表取締役社長 曾我 憲道

ゼラチンは日常生活の様々な ところでお役に立っています!

医薬品

ハードカプセル

粉末や顆粒状の薬を入れて飲みやすく



ソフトカプセル

オイル状の薬が入っていて、効き目が早い



シッフ剤

打ち身や捻挫の痛みを抑える必需品



糖衣錠

味の強い薬でも、糖類の皮膜で飲みやすく



工業製品

写真フィルム

フィルムや印画紙の感光膜を作るための必需品



マッチ

マッチの頭の発火部分を固めます



日本人形

胡粉に混ぜて使用し、日本の伝統を守ります



弦楽器

音の伝達を良くする働きもあり、理想的な接着剤



ゼラチンはいろいろな食べ物に使われているが、その他に薬などの医薬品や伝統を守るためにも使われているのじゃ。

いろいろなところに使われていて、ゼラチンってすごいね! 他にも使われているものがあるのかな? もっと教えてね。





アナリストの視点から見る新田ゼラチン[Part II]

新田ゼラチンは、「アジア圧倒的No.1、世界オンリーワン企業」に向けて、昨年の株式上場を機に新たなスタートを切り今年で一年を迎えます。株主の皆様へ、世界を目指す新田ゼラチンをより一層ご理解頂くために、前回に続き日本を代表するアナリスト鈴木行生氏と当社代表取締役社長の曾我憲道による対談を実施しました。第二回目は、新田ゼラチンの“成長戦略”を軸にお送りいたします。

鈴木:今回は、新田ゼラチンの成長戦略を軸にお聞きしたいと思います。まずは、貴社の事業領域全般における中長期的展望をどのようにお考えでしょうか？

曾我:私共のビジネスにおける中長期展望は、以下のように考えています。第一に、当社は、経済成長が継続的に推移し、ゼラチン、コラーゲンペプチド、コラーゲンケーシングとともに堅調な需要増が見込まれるアジアに、製造・販売拠点の基盤を持つ大きな強みを有している。第二に、世界的に原料タイトが見込まれ需要バランスが低下する傾向が想定される中、当社グループは、原料調達力の強化・供給能力の増強・製品提案力の更なる向上を積極的に進めており、これらの強みを最大限に活かすことで事業成長が果たせるものと考えます。

鈴木:では、原料調達力の強化・供給能力の増強、製品提案力の更なる向上等の達成に向けた施策及び具体的な計画を教えてください。

曾我:一言でいうと、スクラップ&ビルドです。当社グループのゼラチン生産の中核を担う大阪工場においては、この機会に古い設備を一新していきます。従業員に対しても“整理整頓～スペースを作りなさい”と促しています。これは、小さなスペースでも高付加価値のある製品を作れるようにしたい…との思いからです。

2013年3月期の設備投資額は1,487百万円を予定しています。具体的には、北米でコラーゲンペプチドの工場(1,000t規模)を建設するのに5.6億円(総投資額14億円)、同じ北米でソーセージなどのコラーゲンケーシングの生産効率を30%ほどアップさせるために2.3億円(総投資額6.4億円)、大阪工場のCO₂排出量を25%削減し省エネを推進するため設備導入等に3.6億円などです。また、製品提案力を強化するために、日本、米国、中国、インドのアプリケーションラボのスタッフ、設備を増強する予定です。

鈴木:この度、私自身が新田ゼラチンをより深く理解するために、大阪工場を訪問させていただき、貴社の技術力・精密性・レベルの高さと安定化に向けた取り組みについて再認識する事が出来ましたが、これらの貴社の強みを今後どのように発展されていくお考えでしょうか？

曾我:海外展開を積極的に推進しつつ、ゼラチン、コラーゲンペプチド、コラーゲンケーシングに加え、新たに高機能商材のマーケットを創造していきたいと考えています。例えば、再生医療分野向けの医療用ゼラチン・コラーゲンや、高機能樹脂等が挙げられます。特に、ホットメルト接着剤の技術を活かしたシーリング材のロボットによる自動塗工の提案は、大変評価が良く採用実績が出始めています。今後、デジタルカメラ、スマートフォン、スマートメーターなどで需要が見込まれ、大いに期待しています。

鈴木:次に、新田ゼラチンの第二の柱になると推察するコラーゲンペプチドについてお聞かせ下さい。

曾我:この度、コラーゲンペプチド関連商品として、自社商品の「コラゲネイド(コラーゲンペプチドの健康補助食品)」が、モンドセレクション2012に初出展で最高金賞を受賞しました。コラーゲンペプチドの競争力強化に向けた施策を推進する当社としても、最高の出だしを得る事ができました。同時に、コラーゲンペプチドの機能性の良さについては各方面で研究が進んでおり、当社としてもこれをアピールする絶好の機会であると考えています。

また、コラーゲンペプチドのコスト競争力を強化する施策として、一度ゼラチンを作ってからコラーゲンペプチドに加工するのではなく、原料に近い立地に工場を作り、原料から直接ペプチドを製造するという方法を積極的に取り組んでいます。すでに、中国広東省の工場が稼働しており、さらに、2014年3月期には、米国ノースカロライナで生産開始します。

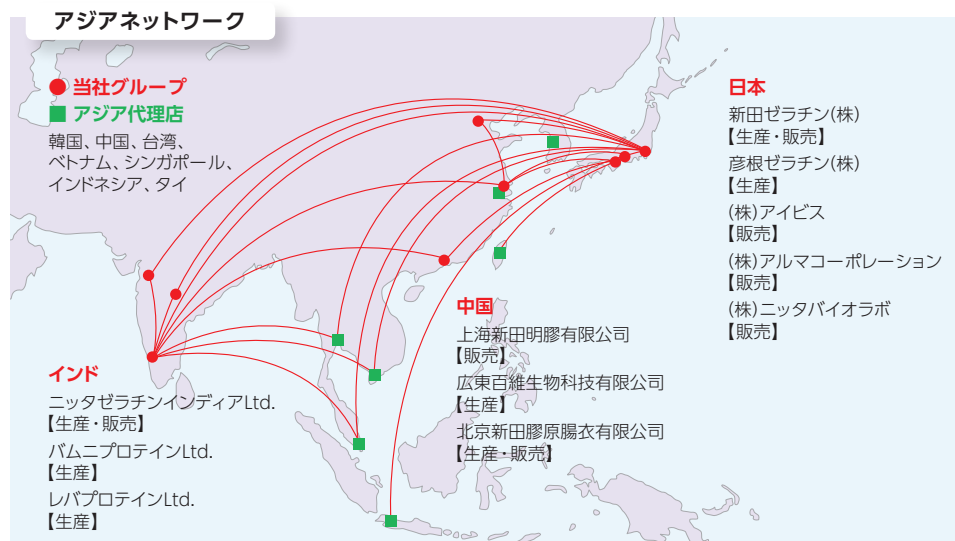
最後になりますが、新田ゼラチンは2018年に創業100周年を迎えます。これもひとえに皆様の日頃からの暖かいご支援の賜物と感謝しております。今後とも、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

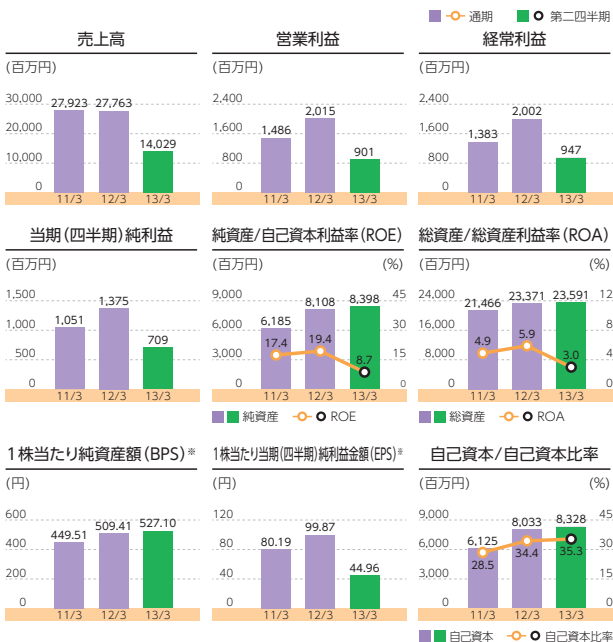
鈴木:有難う御座いました。今後も、ゼラチン、コラーゲンペプチド、コラーゲンケーシングで、世界をリードする新田ゼラチンに期待したいと思います。

PROFILE

鈴木 行生(すずき ゆきお)

東京理科大学大学院理工学研究科経営工学専攻修士課程修了。1975年(株)野村総合研究所入社。自動車、重工機械、鉄鋼、国際商品市況、合繊等の産業を担当。東京、大阪、パリでの企業アナリストを経て、1996年取締役企業調査部長。1997年野村證券(株)取締役金融研究所長。2000年野村アセットマネジメント(株)常務執行役員調査本部長。2005年野村ホールディングス(株)取締役。2007年現公益社団法人日本証券アナリスト協会会長。2010年7月(株)日本ベル投資研究所を設立し、IRアナリスト(Independent Research Analyst)として活動中。





※当社は、2011年4月1日付で普通株式を株式1株につき2株の株式分割を行っています。
このため、2011年3月期は、遡及適用し算出しています。

事業別営業の概況

コラーゲン素材事業

ゼラチンは、国内ではカプセル用が堅調に推移しました。一方、食用の売上が減少、写真用は大幅な減少となりました。海外市場では、食用、カプセル用の需要が旺盛で、価格改定効果もあり売上が増加しました。コラーゲンペプチドは、日本では他社品との競争による販売価格の低下、他素材との競争、また、アジア市場の開拓遅れにより、売上が減少しました。コラーゲンケーシングは、米国でスナックソーセージ用が堅調に推移すると共に、中国向け輸出が好調に推移し、売上が増加しました。

以上の結果、売上高8,855百万円(前年同期比1.5%減)、セグメント利益929百万円(前年同期比29.1%減)となりました。

フォーミュラーソリューション事業

食品材料は、日本の堅調な食品市場に支えられ、コンビニデザート、ハム・ソーセージ用品質改良剤が好調に推移しましたが、他社品との競争により総菜用が低迷し、売上は減少しました。接着剤は、震災復興需要に支えられた建材用ホットメルト形接着剤と、新開発製品である高機能樹脂が好調に推移しました。しかしながら、出版業の低迷による製本用の減少、一部製品の事業譲渡により売上が減少しました。

以上の結果、売上高5,173百万円(前年同期比2.8%減)、セグメント利益648百万円(前年同期比8.4%増)となりました。

会社概要

本社…………… 〒556-0022 大阪市浪速区桜川4丁目4番26号
 創業…………… 1918年1月
 設立…………… 1945年2月
 資本金…………… 1,577,121,250円
 売上高…………… 単体:205億円(2012年3月期)
 ……………… 連結:277億円(2012年3月期)
 従業員数… 単体:254名(2012年3月末現在)
 ……………… 連結:592名(2012年3月末現在)
 事業内容… 食用、医薬用、写真用ゼラチンの製造・販売。コラーゲンペプチドの製造・販売。コラーゲンケーシングの製造・販売。化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲンの製造・販売。ゲル化剤、安定剤等の食品材料の製造・販売。包装用、製本用、建材用、衛材用接着剤の製造・販売。
 事業所…………… 国内4カ所

関連企業

Nitta Gelatin NA Inc.(米国) 株式会社アイビス
 Nitta Gelatin Canada, Inc. (カナダ) 株式会社アルマコーポレーション
 Nitta Gelatin USA, Inc.(米国) 株式会社ニッタパイオラボ
 Nitta Casings Inc.(米国) 彦根ゼラチン株式会社
 Nitta Casings (Canada) Inc. (カナダ) ボスティック・ニッタ株式会社
 Nitta Gelatin Holding, Inc. (米国) Nitta Gelatin India Ltd.(インド)
 上海新田明膠有限公司(中国) 広東百維生物科技有限公司(中国)
 北京新田膠原腸衣有限公司(中国) 新寿サービス株式会社
 Nitta Hong Kong Ltd.(中国) Bamni Proteins Ltd.(インド)
 Reva Proteins Ltd.(インド)

役員(2012年6月27日現在)

代表取締役社長…………… 曾我 憲道
 取締役 専務執行役員 …… 佐々木 恒雄
 取締役 執行役員 …… 山木 健男
 取締役 執行役員 …… 尾形 浩一
 取締役 執行役員 …… 大塚 龍郎
 取締役…………… 新田 浩士
 取締役(社外)…………… 石原 真弓
 常勤監査役…………… 立松 信三
 監査役(社外)…………… 酒谷 佳弘
 監査役(社外)…………… 東郷 重興
 上席執行役員…………… レイモンド・メルツ
 上席執行役員…………… 西尾 敏一
 執行役員…………… 中井 康之
 執行役員…………… 竹宮 秀典
 執行役員…………… 山本 祐二
 執行役員…………… 玉岡 徹
 執行役員…………… 小田 義高

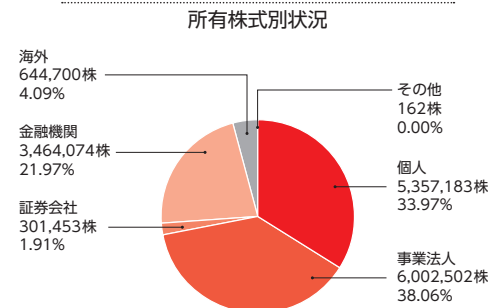
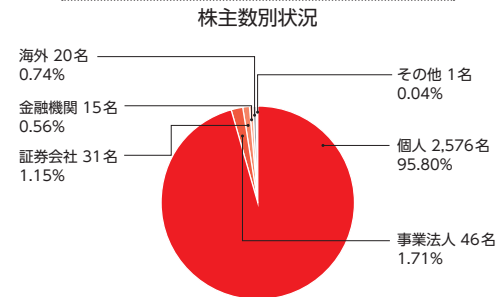
発行可能株式総数 50,000,000株
 発行済株式の総数 15,770,074株(自己株式162株を含む)
 株主数 2,689名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
アイビーピー株式会社	2,946,316	18.68
ニッタ株式会社	840,014	5.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	621,074	3.94
株式会社三井住友銀行	600,286	3.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	580,200	3.68
新田ゼラチン従業員持株会	472,400	3.00
有限会社以和貴	391,000	2.48
石塚産業株式会社	382,014	2.42
株式会社りそな銀行	334,672	2.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	280,000	1.78

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(162株)を控除した株式数を基準に算出し、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

株式・株主分布状況



事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	4977
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
(電話照会先)	フリーダイヤル 0120-782-031
(インターネット ホームページ)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

株主優待のご案内

株主の皆様のご支援に感謝すると共に、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ること、及び当社グループの事業へのご理解を賜りたく、株主優待を実施いたします。

〈株主ご優待制度の内容〉

対象の株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

優待内容

当社子会社の株式会社ニッタバイオラボが販売する、当社の消費者向け商品(健康食品、化粧品、ゼラチン等)、もしくは、当社商品のお買物優待券をご所有株式数に応じて贈呈いたします。



株主優待商品例
(3,000円相当)
※諸般の事情により、商品セットの内容を変更することがございます。

ホームページのご紹介

検索 **新田ゼラチン** <http://www.nitta-gelatin.co.jp/>

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、IR情報や会社情報など様々な情報をご案内しております。